● 実施概要

調査実施期間 2020年11月1日~

調査対象 全国の高等教育機関学生・院生 回収数 722 (2020.11.18 10:00 時点)

● 基礎情報

▶ 性別に関して

	実数	構成比
男性	324	44.9%
女性	388	53.7%
答えたくない	10	1.4%
総計	722	100.0%

▶ 大学種別

	実数	構成比
国公立/4年制大学	494	68.4%
国公立/短期大学	15	2.1%
国公立/高等専門学校	0	0.0%
私立/4年制大学	212	29.4%
私立/短期大学	1	0.1%
私立/高等専門学校	0	0.0%
総計	722	100.0%

▶ 学年

	実数	構成比
1年生	280	38.8%
2年生	185	25.6%
3年生	159	22.0%
4年生	71	9.8%
5年生以上	2	0.3%
大学院生	25	3.5%
総計	722	100.0%

▶ 住まい

	実数	構成比
自宅	234	32.4%
下宿(アパート等)	428	59.3%
寮	54	7.5%
その他	6	0.8%
総計	722	100.0%

● 奨学金に関して

▶ 利用しているのか

	実数	構成比
貸与型(有利子)	127	17.6%
貸与型(無利子)	137	19.0%
貸与型(有利子・無利子併用)	46	6.4%
給付型	69	9.6%
給付型・貸与型併用	46	6.4%
利用していない	285	39.5%
わからない	9	1.2%
答えたくない	3	0.4%
総計	722	100.0%

▶ 利用目的

	実数	構成比
授業料を賄うため	307	72.2%
自分のための生活を賄うため	293	68.9%
学校(高校・大学)の先生に勧められたから	23	5.4%
親に勧められたから	155	36.5%
給付型だったから	58	13.6%
高額商品の購入や特別な支出	18	4.2%
特に使途を決めていない	15	3.5%
知らない・わからない	0	0.0%
その他	3	0.7%

▶ 貸与(給付)額

	実数	構成比
0-3万円未満	47	11.1%
3-5万円未満	149	35.1%
5-8万円未満	132	31.1%
8-10万円未満	45	10.6%
10-12万円未満	29	6.8%
12-15万円未満	10	2.4%
15万円以上	5	1.2%
わからない	8	1.9%

▶ 口座管理者

	実数	構成比
自分	282	66.4%
保護者	136	32.0%
わからない	1	0.2%
その他	6	1.4%

▶ 返済見通し

	実数	構成比
立っている	176	41.4%
立っていない	189	44.5%
返済の必要がない	60	14.1%

▶ 返済計画を立てたことがあるか

	実数	構成比
ある	167	39.3%
ない	200	47.1%
返済の必要がない	58	13.6%

▶ 奨学金を借りていることへの不安

	実数	構成比
漠然とした不安がある	233	54.8%
返済できるかどうか	264	62.1%
結婚への影響	69	16.2%
考えたことがない	44	10.4%
不安はない	61	14.4%
その他	26	6.1%

● 収入について

▶ 収入内訳

		仕送り	奨学金	アルバイト	その他
0円	実数	271	246	195	432
UΠ	構成比	40.2%	37.3%	28.2%	89.8%
 1-3万円未満	実数	181	58	167	33
1-3万门木凋	構成比	26.9%	8.8%	24.1%	6.9%
2.5万円土港	実数	108	147	167	11
3-5万円未満	構成比	16.0%	22.3%	24.1%	2.3%
5-8万円未満	実数	78	135	132	5
	構成比	11.6%	20.5%	19.1%	1.0%
8-10万円未満	実数	24	34	25	0
8-10万円木油	構成比	3.6%	5.2%	3.6%	0.0%
10-12万円未満	実数	9	21	4	0
10-12万日不何	構成比	1.3%	3.2%	0.6%	0.0%
12-15万円未満	実数	3	13	2	0
12-13万円不満	構成比	0.4%	2.0%	0.3%	0.0%
15 TO 10 L	実数	0	6	0	0
15万円以上	構成比	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%

● アルバイトに関して

▶ アルバイトをしているか

	実数	構成比
1-5時間未満	86	11.9%
5-10時間未満	116	16.1%
10-15時間未満	126	17.5%
15-20時間未満	85	11.8%
20-25時間未満	43	6.0%
25-30時間未満	14	1.9%
30時間以上	12	1.7%
していたが、今はしていない	112	15.5%
していない	128	17.7%
総計	722	100.0%

▶ アルバイトの目的

	実数	構成比
娯楽費を稼ぐため	413	69.5%
生活費を賄うため	362	60.9%
授業料を賄うため	94	15.8%
奨学金が不足しているため	34	5.7%
その他	47	7.9%

▶ 学業への影響

	実数	構成比
ある	227	38.2%
ない	367	61.8%

▶ アルバイトによる学業への影響はあったか

	実数	構成比
睡眠不足で授業に集中できない	152	25.6%
1限の講義に間に合わない	46	7.7%
単位を落としていた	33	5.6%
体調を崩した	98	16.5%
特に影響はない	13	2.2%
その他	34	5.7%

● 大学進学について

▶ 進学の目的

	実数	構成比
専門的な知識を身に着けるため	380	52.6%
職業的技能を身に着けるため	110	15.2%
学歴や資格を得るため	398	55.1%
自分の才能を伸ばすため	69	9.6%
高所得を得るため	66	9.1%
自由な時間を楽しむため	38	5.3%
周りの人が進学するため	35	4.8%
親が進学を勧めたため	21	2.9%
実家を出たかったため	22	3.0%
都会に活きたかったため	3	0.4%
大学生活が楽しそうだったため	62	8.6%
新しい出会いがあると思ったため	27	3.7%
交換留学など海外経験ができるため	20	2.8%
就職しやすいと思ったため	118	16.3%
なんとなく	20	2.8%
その他	14	1.9%

● 学費について

▶ 国公立大学の学費は高いと思うか

	実数	構成比
そう思う	225	31.2%
ややそう思う	252	34.9%
あまりそう思わない	175	24.2%
全くそう思わない	29	4.0%
わからない	41	5.7%
総計	722	100.0%

▶ 国公立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思うか

	実数	構成比
そう思う	32	4.4%
ややそう思う	108	15.0%
あまりそう思わない	357	49.4%
全くそう思わない	181	25.1%
わからない	44	6.1%
総計	722	100.0%

▶ 私立立大学の学費は高いと思うか

	実数	構成比
そう思う	599	83.0%
ややそう思う	96	13.3%
あまりそう思わない	13	1.8%
全くそう思わない	4	0.6%
わからない	10	1.4%
総計	722	100.0%

▶ 私立立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思うか

	実数	構成比
そう思う	124	17.2%
ややそう思う	209	28.9%
あまりそう思わない	240	33.2%
全くそう思わない	102	14.1%
わからない	47	6.5%
総計	722	100.0%

- 奨学金に関する意識や考え方について
- ▶ 制度の説明は十分だと思うか

	実数	構成比
はい	200	27.7%
いいえ	274	38.0%
わからない	248	34.3%
総計	722	100.0%

▶ 結婚に影響すると思うか

	実数		構成比
はい		367	50.8%
いいえ		184	25.5%
わからない		171	23.7%
総計		722	100.0%

▶ 完全給付型であるべきだと思うか

	実数	構成比
はい	431	59.7%
いいえ	163	22.6%
わからない	128	17.7%
総計	722	100.0%

● 自由記述欄

	実数	構成比
何らかの記述がある	491	68.0%

【抜粋】

- ・ 所得が高くても自立したくて、親に学費を出してもらいたくない場合、同じ条件で奨学金を借り る事ができる制度を確立して欲しい。
- ・ 貧困家庭が貧困のままになっちゃう国なのかな?
- ・ 奨学金そのものが悪いというより、説明不足だと思います。分からないという回答がひとつでも ある状況そのものが良くないです。奨学金を利用する人利用しない人が同じくらいの知識を身に 付けられるようにしてほしいです。
- ・ 現在の「奨学金」制度の実態は、教育ローンそのものです。「学びを奨ます」という字義とは裏腹に、奨学金により学びに影響が出たり、将来にまでその負担が及ぶ仲間がいることを決して見過ごせません。コロナ禍においては、奨学金を借りている仲間が困窮を強いられているという話も聞きます。今こそ給付型奨学金を、全ての学生に対して無条件で受給できるよう制度を拡充すべきです。
- ・ 下の世代への投資としての奨学金であるべきかなと思う。国にそこまで余裕が無いけど、次の世代は国のために頑張って欲しいという圧を感じざるを得ない。卒業する際、大学が推薦する学生数名を国が奨学金を無償にするといった制度があれば、現状借りている学生は頑張るのではないかと思う。
- ・ 奨学金の返済を理由に奨学金制度を利用できず、また進学を諦めてしまう人が多いように思います。そのように困っている人を少しでも減らし、学びたいと思っている全ての学生を支援することができるような取り組みを期待しています。